Melodian 環境レポート

環境のあゆみ 2007

メロディアン株式会社
ホームページ
http://www.melodian.co.jp

会社概要

創　　業　　昭和３３年１２月６日

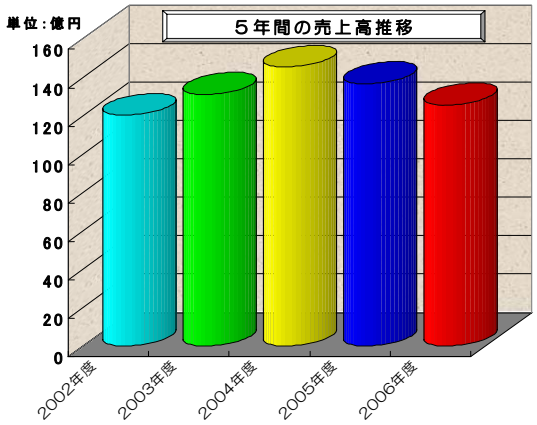
設　　立　　昭和３６年９月２０日

資 本 金　　９,８５０万円

従業員数　　３１５名（2007年４月１日現在／グループ全体）

事業内容　コーヒーフレッシュ、シロップ、美と健康飲料、
　　および洋生菓子等の食品製造販売

関連会社　株式会社メロディアンメンテ
　　株式会社メロディアンハーモニーファイン



沿　　革

昭和３３年１２月　大阪府八尾市に日興乳業創業
昭和３６年　９月　日興乳業株式会社を資本金１００万円で法人設立
昭和４９年　９月　資本金２,０００万円に増資
昭和５４年　５月　東京営業所開設（現:東日本事業所）
昭和５５年　６月　広島営業所・福岡営業所（現:九州営業所）開設
昭和６１年１１月　三重上野工場建設　敷地面接１万坪　４０億円投資
平成 元年　３月　高松営業所開設（現:四国営業所）
　　６月　メロディアン株式会社に社名変更
平成　２年　４月　国際花と緑の博覧会「ＭＥＬＯＤＩＡＮ　ＬＡＮＤ」出展
平成　３年　１月　環境対策委員会を発足
平成　４年　４月　『環境対策委員会のあゆみ』(現:環境のあゆみ)を発刊
　　１０月　株式会社メロディアンメンテ設立
　　１１月　『日本高山植物保護協会(JAFPA)』へ法人入会と関西支部設立に協力
　　１２月　資本金９,８００万円に増資、
平成　５年　３月　高山植物保護キャンペーン『高山植物いろどりプレゼント』を実施
　　社用車のディーゼルエンジン車からガソリンエンジン車への全面切替を決定（NOx 対策）
　　５月　長野県白馬に保養所完成
平成　６年　６月　三重上野工場排水処理設備の増設
平成　７年　５月　当社社員より『日本高山植物保護協会(JAFPA)』の理事へ就任
平成　８年　５月　三重上野工場へ高温度焼却炉を設置（ダイオキシン対策）
平成１０年　３月　社用車のガソリンエンジン車輌への全面切替完了と低公害車導入の決定
　　１２月　三重上野工場がＩＳＯ９００２の認証を取得
平成１２年　１月　ＩＳＯ１４００１を全社一斉認証取得
平成１３年　４月　近畿事業所・名古屋営業所（現:中部営業所）開設
　　１０月　認証取得範囲を企画開発部門まで拡大しＩＳＯ９００１へ更新
　　１１月　三重上野工場の焼却炉運転の全面停止（平成１４年３月撤去）
平成１４年　１月　三重上野工場から埋め立て処分場へ直接排出される廃棄物の撲滅達成
　　２月　三重上野工場排水処理施設へ膜濾過設備を導入
　　１２月　三重上野工場にてＨＡＣＣＰ認証取得
平成１６年　４月　岡山営業所開設
　　１１月　三重上野工場を三重工場へ名称変更（市町村合併に伴う変更）
平成１７年１１月　株式会社メロディアンハーモニーファイン設立
平成１８年　４月　四国営業所を岡山営業所へ統合し中四国営業所を開設
平成１９年　３月　三重工場へ中身入ポーション破砕分別設備を導入

◆ ご挨拶 ◆

メロディアングループは『おいしさ志向』、『健康志向』、『本物志向』を基本コンセプトとして、常にお客様の美と健康をサポートし、感動して頂くことの出来る感動生産企業を目指して、企業活動に努力しています。

近年は業種や業態に関わらず、様々な組織における不祥事や不適切な事件などのニュースが、日々飛び交っております。企業にとって『ブランドイメージは重要な資産である』という認識のもと、社是にも掲げております『信頼される企業』はもとより、製品の安心・安全をはじめ、企業市民の一員として日々の企業活動を通じて地球環境へ与える負荷を軽減すべく、原材料の省資源化やエネルギーの効率的利用、ハイブリッド車への切り替えなど環境保全への取り組みを進めてまいりました。

また、気候変動や盗掘などで絶滅が懸念されている高山植物の保護活動を展開するNPO法人日本高山植物保護協会へ法人として加入すると共に、全社員が個人会員としても加入して頂いています。そして、関係する外部取引業者様へのご紹介など、メロディアングループとして出来ることを、少しずつではありますが確実に進めることができたのも、皆様のご理解とご協力の賜物であると深く感謝しております。

グループを取り巻く環境は、依然として厳しさが増してきておりますが、皆様の更なるご協力のもと、全従業員が一丸となって現状を打破し新たな飛躍を果たすべく、引き続き真実と信頼の企業活動を継続してまいりたいと願っております。

この『環境のあゆみ２００７』は、２００６年度の取り組みとその結果を掲載しております。

メロディアングループの取り組みを知っていただくと共に、今後もより一層の充実を目指したいと思いますので、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

２００７年７月

代表取締役　社長

中西 啓詞

事業所一覧

本　　社		
	〒581-0833 大阪府八尾市旭ヶ丘 1 丁目 33 番地	TEL:072-999-3250(代表)
東日本事業所		
	〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-29-4(西新宿ミノシマビル 3F)	TEL:03-5371-3637(代表)
近畿事業所		
	〒532-0003 大阪市淀川区宮原 5-1-18(新大阪サンアールセンタービル 10F)	TEL:06-6150-3277(代表)
中部営業所		
	〒450-0002 名古屋市中村区名駅 4-2-7(丸森パークビル 5F)	TEL:052-587-5150
中四国営業所		
	〒700-0907 岡山県岡山市下石井 1-1-3(日本生命岡山第 2 ビル 6 階)	TEL:086-235-3826
広島営業所		
	〒732-0824 広島市南区的場町 1-1-21(クリスタルタワー9 階)	TEL:082-262-7801
九州営業所		
	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-5-18(サウス・ワン 1F)	TEL:092-474-4227
三重工場		
	〒518-1151 三重県伊賀市白樫 2816 番地 6	TEL:0595-20-2000(代表)

経営理念と環境方針

経営理念

―― 社　　是 ――

1．信頼される人間になろう。
1．信頼される商品を作ろう。
1．信頼される企業になろう。

―― 基本方針 ――

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにあり、以下の５項目を基本方針とします。

一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

環境方針

1.　基本理念

当社は、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

2. 基本方針

１）ISO14001 に基づく環境管理システムの構築を行い、全社員参加のもと、外部取引先様と共に環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
２）環境関連の法規制、地域との協定などの順守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
３）環境保全活動の目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
４）無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
５）電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
６）従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
７）この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

平成１７年2月２５日

メロディアン株式会社
株式会社メロディアンメンテ
代表取締役社長中西　啓詞

『環境のあゆみ２００７』報告にあたり

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的とし、２００２年度（平成１４年度）より一般の方々へ公開しております。また、今回より紙資源保護を目的に Web での公開を基本とし、冊子による配布を最小限に抑えておりますのでご理解いただきたく存じます。冊子ご希望の場合は当社ホームページよりダウンロードしてご利用ください。

今回の「環境のあゆみ２００７」の報告対象期間は２００６年度（２００６年４月１日～２００７年３月３１日）の活動内容と結果を基本としておりますが、一部報告には２００７年度の計画を含んでいます。

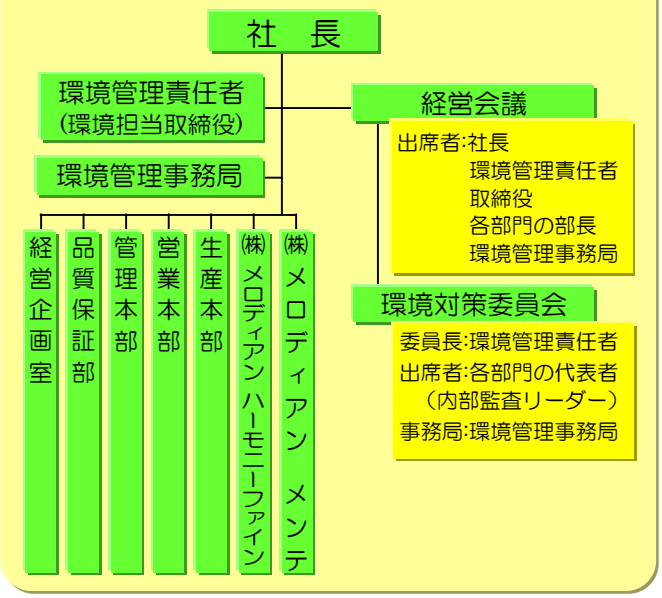
対象範囲はメロディアン株式会社(全事業所)と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動です。

昨年５月発行の「環境のあゆみ２００６」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きありがとうございました。　読者の皆様の貴重な声を今後も環境保全活動と報告書作成に活用させて頂きたく、今回も簡単なアンケートをご用意いたしましたので、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ下さい。

（次回発行時期：２００８年　春 ）

環境マネジメントシステムの概要と運用状況

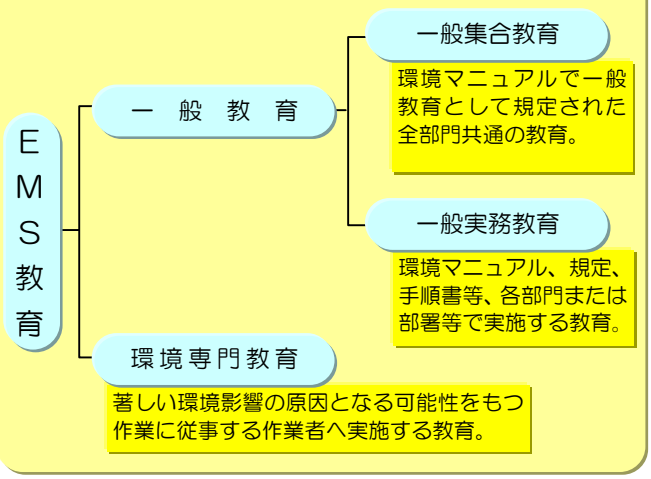
環境マネジメントシステム組織図



社長が責任者(環境管理責任者が副責任者)として毎月１回開催する経営会議には、各部門の責任者である部長をはじめ、各部門の担当取締役も参加し、環境目標の達成状況の確認や、環境情報の共有化を図ると共に、環境保全に関する重要事項の審議と決定を行っています。

また、経営会議の直下には環境管理責任者が委員長を勤める環境対策委員会を設置し、経営会議へ上申するための実務レベル協議や、内部監査のための打合せなどを実施します。

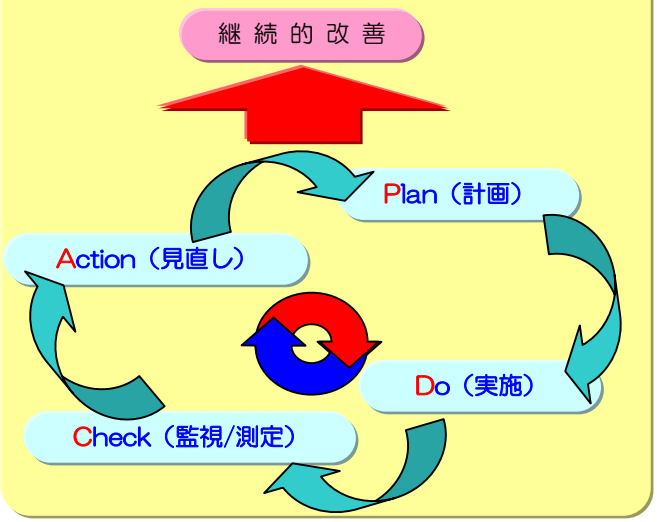
ＥＭＳ教育体制



環境マネジメントシステム（ＥＭＳ）に関する教育は、年度当初に立てる年間教育計画にもとづいて全従業員を対象に実施しています。

特に一般集合教育は、ＥＭＳに関する社内ルールを中心にした基礎学習として、全従業員が毎年繰り返し教育を受けることにしています。

環境マネジメントシステム



環境マネジメントシステムを図で表すと概ね上図のようなイメージになります。

環境マネジメントシステムを英語表記するとEnvironmental management systemsとなり、その頭文字をとってＥＭＳとも言います。

Plan（計画）
環境方針に沿った結果を得るために必要な具体的目標を決めて、それを達成するための計画を具体化します。

Do（実施）
具体化された計画に沿って、目標達成のための施策を実施、運用します。

Check（監視/測定）
環境方針をはじめ目標や計画、関連する法令や基準などに照らし合わせて、実施状況や運用状態を測定したり点検したりして監視し、結果を組織の責任者へ報告します。

Action（見直し）
各組織の責任者は、監視結果に基づいて環境マネジメントシステムによる成果を継続的に改善するための処置をとります。
環境マネジメントシステムは、環境面の管理を体系的に行う仕組みとして、これらのP-D-C-Aを組織内の各工程で適用する管理手法のひとつです。

この環境マネジメントシステムの国際規格としてＩＳＯ14001があり、メロディアンはこのＩＳＯ14001の認証を2000年（平成12年）１月に取得し、毎年定期的に第三者機関による審査を受けて、その認証を継続することで、環境マネジメントシステムの改善に役立てています。

Melodian ISO 14001

環境目的目標の達成状況

２００６年度（２００６年4月1日～２００７年3月31日）の環境目標への取り組みに対する達成状況です。

【取組み結果の評価マーク】

目標達成　 　ほぼ達成　 　もう少し　

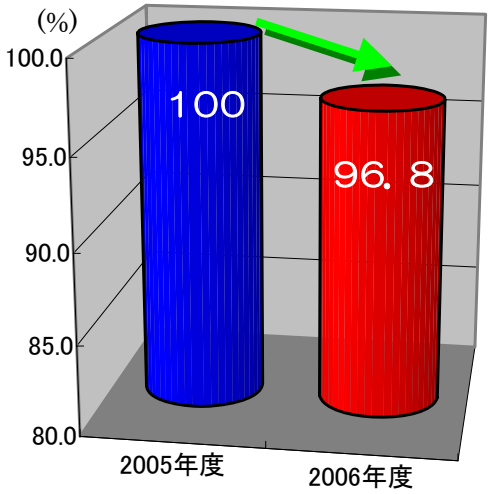
環境目的	２００６年度の目標	結果評価	解説
温室効果ガスデータの活用による全社エネルギーコストの削減。	データ把握方法を標準化し現状把握を実施する。		前年度に標準化した仕組みで、現状把握を実施しました。
グリーン販促物購入比率の拡大。	グリーン購入アイテム比率を70%にする。		前年は、あと一歩の結果でしたが今年度は75%まで伸ばすことができました。
受注ミスによる追加配送の削減。	受注ミス件数を前年実績から更に10%削減する。		受注ミスを前年実績から更に32．7%減らすことができました。 これにより無駄な追加配送の発生を抑えることが出来ました。
配送クレームによる商品廃棄量の削減。	配送クレーム発生率を前年実績から6%削減する。		輸送業者様のご協力により、前年は、あと一歩の結果でしたが今年度は23%削減と、大きく目標をクリアすることが出来ました。
外注クレーム件数の低減。	外注クレーム件数を前年実績から10%低減する。		前年度の外注クレーム発生件数が目標を大幅に達成したということもあり、更に10%の低減には、あと一歩およびませんでした。 しかしながら、外部委託業者の皆様のご協力により、8．2%の低減が出来ました。
購買起因トラブル抑制による無駄の排除・抑制。	支給原材料のクレームを把握する。		外部委託業者様へ納めている支給原材料のクレームの発生状況が把握でき、今後の取り組みの礎を得ることが出来ました。
中身入りポーションの廃棄量削減。	イレギュラーロスを除いた前年度廃棄量の5%を削減する。		目標には僅かに届きませんでしたが、達成率95%まで削減することが出来ました。
電力使用量データの有効活用による省エネの推進。	製品仕込み量を原単位として1%の省エネを実施する。		単月では未達の月もありましたが、年間の電力使用量は、目標を達成することが出来ました。
販売活動に伴う商品ロスの削減。	(営業部) 前年実績の25%削減。		年度終盤に販売中止となった商品の影響で未達となりました。
	(特販部) 商品ロス5．6%削減。		管理項目および外注商品の管理体制の確立を行い、目標を大きくクリアすることが出来ました。

◆エネルギー消費量の推移（三重工場）

２００５年度より三重工場のエネルギー消費量の管理方法について、生産量を基準とした原単位で把握し、管理することで省エネルギーの視点からも生産効率を高める取り組みを進めています。

２００６年度は前年実績に比較して、約３％低く抑えることができました。

これは前年に比べて夏の高気温の期間が短く、冬期も暖冬傾向だった影響もありますが、それぞれの期間で過度な空調を控えることが実践できたことの表れと捉えて、今後も継続的に取り組む必要があります。



エネルギー消費量(原単位)
前年対比のグラフ

◆排水処理の管理状況（三重工場）

三重工場の生産ラインから洗浄などによって排出される排水の管理状況は、昨年の報告以降も、下表の通り関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しています。

単位：mg/L（但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml）

測定項目（基準値）	測定サンプル採取日（月／日）と測定結果											
	4/21	5/24	6/23	7/19	8/23	9/21	10/24	11/21	12/22	1/24	2/15	3/15
水素イオン濃度（5.8～8.6）	7.20	6.80	7.30	7.00	6.80	7.20	6.80	7.10	7.30	7.00	7.10	7.20
生物化学的酸素要求量（25 以下）	2.00	1.00	1.00	1.00	3.00	1.00	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
化学的酸素要求量（なし）	16.00	13.00	17.00	14.00	9.00	10.00	13.00	10.00	14.50	13.60	6.60	16.80
浮遊物質量（90 以下）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	2.00	2.00	2.00
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質（30 以下）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
全窒素（120 以下）	14.00	16.00	13.00	14.00	14.00	16.00	16.00	12.00	12.50	12.40	17.30	12.60
全リン（16 以下）	0.75	0.64	0.55	0.54	0.55	2.50	1.50	0.51	1.04	0.44	0.72	0.86
大腸菌群数 ＊（3000 以下）	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	34	(－)	(－)	(－)	12
鉄（10 以下）	3.10	1.90	3.40	1.80	1.70	0.97	1.60	2.10	2.30	2.20	2.20	2.50
マンガン（10 以下）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.10	0.10
亜鉛［年１回測定］（ 2以下）	0.07（5 月 16 日採取）											
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

＊ 大腸菌群数の（－）は測定限界未満の陰性を示す。

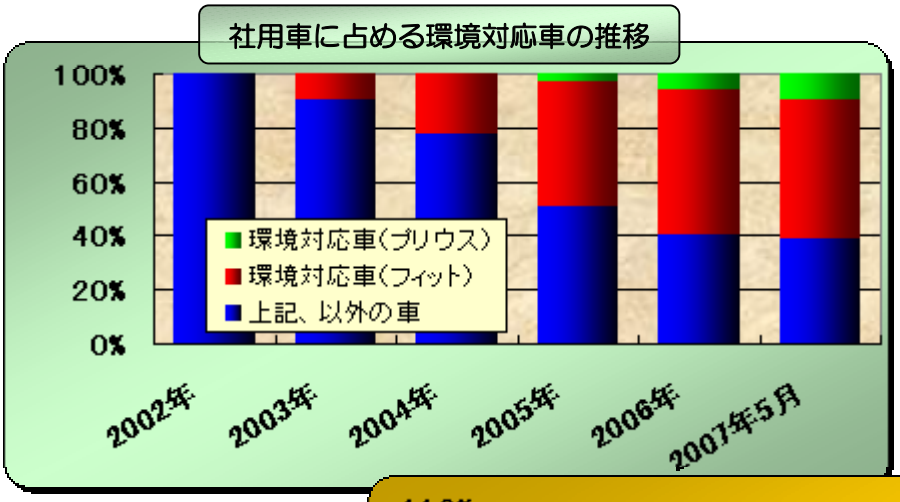
環境保全活動

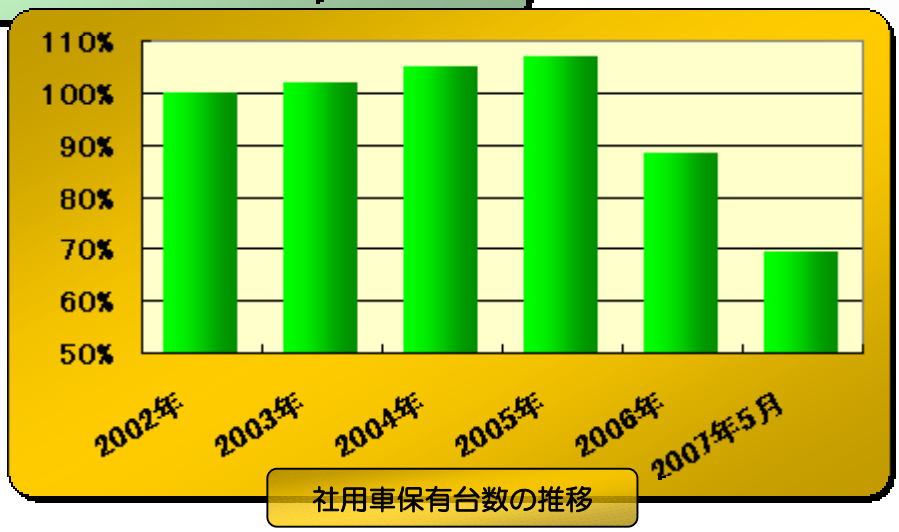
◆ 社用車の環境負荷低減

事業活動に使用する社用車も、順次その当時で環境負荷の低い車種を採用して参りました。現在の社内基準としては、用途別に合わせて小型車(フィット)とハイブリッド車(プリウス)への切り替えを進めています。

また、効率的な運用によって全社用車の保有台数を下げることも並行して取り組んでいます。

その社用車の切り替え状況と総保有台数は次のように推移しています。

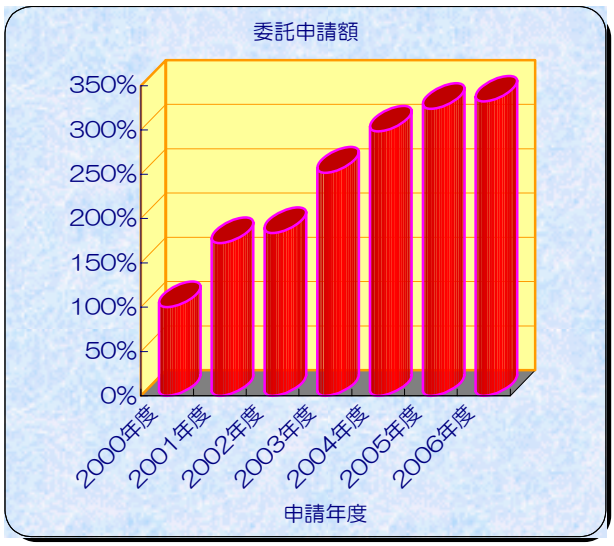




◆ 容器包装リサイクル法に基づく委託実績

当社は容器包装リサイクル法に定められた「特定容器利用事業者」として、法で定められた指定法人「財団法人 日本容器包装リサイクル協会」への委託を行っており、その委託申請額は初年度を 100 とすると、右のグラフのように推移しています。

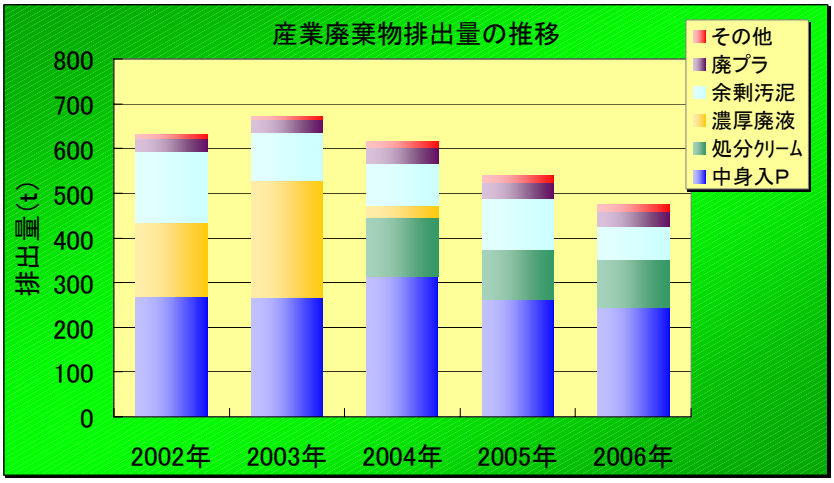
※ 「環境のあゆみ２００６」まで掲載の委託量は算定方式の変更に伴い、除外しています。



◆ 産業廃棄物の管理

三重工場から排出される産業廃棄物は、次の区分に分けることができます。

- 中身入りポーション
- 処分クリーム
- 濃厚廃液
- 余剰汚泥
- 廃プラスチック
- その他



産業廃棄物排出事業者であるメロディアンとしては、排出量の削減ならびに、産業廃棄物のリサイクルを推進することが義務付けられています。

これに対する取り組みの一環として、産業廃棄物の発生そのものを抑制する取り組みと同時に、濃厚廃液、処分クリームおよび余剰汚泥の処理を堆肥化しリサイクルする処分方法に変更するなど、三重工場から排出される産業廃棄物を少しでも無駄にしない取り組みを実施してまいりました。

また、排出した産業廃棄物が適正な方法で間違いなく処理されているかどうか、産業廃棄物管理票制度で定められたマニフェスト伝票などによって、日常的に確認するとともに定期的な現地立ち入り調査を実施しています。

この現地立ち入り調査の際に主に確認する内容としては、

① 廃棄物を受け入れる能力、キャパが十分にあるか
② 適切な処理方法で法令、条例に適合しているか
③ マニフェスト伝票の管理状態

など、全２６項目からなるチェックシートをもとに現地へ出向いて確認を行い、委託先の各産業廃棄物処理事業者様と直接コミュニケーションをとることで、安心して確実な処理を実施していただけるように務めています。

◆ 中身入りポーション破砕分別機の導入

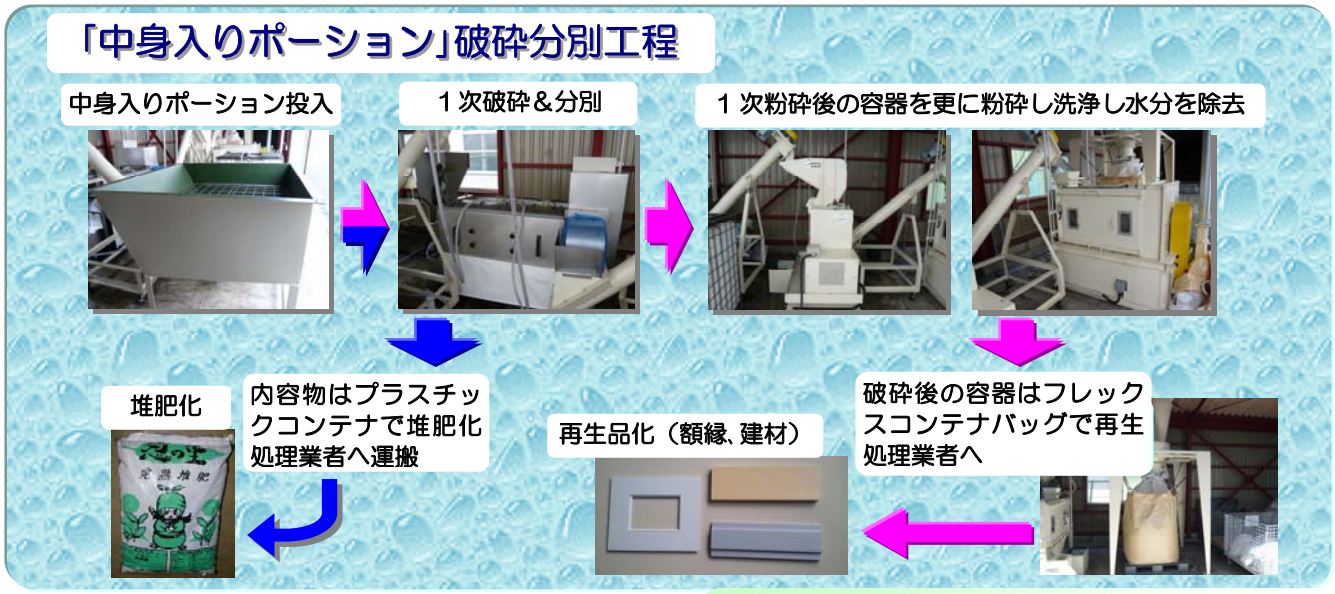
生産工程の機械調整や工程内検査等で発生する商品ロスの低減活動を継続的に実施してきましたが、その中でも「中身入りポーション」は生産量の増加もあって、ここ数年大きな成果が得られず、苦労していました。

「中身入りポーション」とは、当社の主力製品であるポーション製品（写真①参照）の生産工程で発生する産業廃棄物の一つで、内容として充填するクリームやシロップの充填量調整時や品種切り替え時に発生する規格外の製品を指します。

この「中身入りポーション」を産業廃棄物として処理する最良の方法として、焼却処理によるサーマルリサイクルと焼却残渣を大阪湾フェニックス計画の埋め立てに使用していただく処分方法を採用してきました。

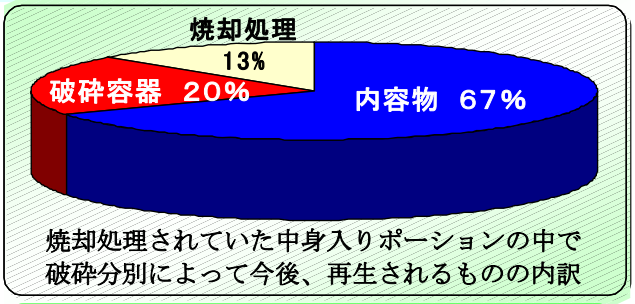
「中身入りポーション」は、容器と内容物を上手く分別することに成功すれば、容器は有価物として再生でき、内容物は堆肥化できることがわかっていましたが、破砕し分別した容器に内容物が付着していたり、容器が濡れていたりすると再生工程で障害となるので再生処理していただくことが出来ないため、焼却処理でサーマルリサイクルすることが最善策となっていました。

そのような中で、上手く破砕分別することが出来て、破砕された容器を洗浄でき、その水分も除去できるという技術を知り、４年前から設備導入を検討してきました。そして、昨年度より「産業廃棄物減量化プロジェクト」を発足させ、その技術を導入する準備を進めて参りました。



この新しい技術を三重工場へ導入するには、多額の初期投資が必要でしたが、その一部を「三重県産業廃棄物抑制等事業費補助」申請を行い採択頂くことで、ようやく 2007 年３月に導入し、４月より本格的に稼働することができました。

この破砕分別の実現によって、従来の焼却処分量の約８７％（内容物６７％、破砕容器２０％）を焼却せずに再生品として処理することができ、（右図参照）資源の有効利用という面だけでなく、温室効果ガスで年間約７５トン（CO_2換算）の削減という面でも、非常に大きな成果を得ることができます。



焼却処理されていた中身入りポーションの中で
破砕分別によって今後、再生されるものの内訳

温室効果ガス削減量　年間 75 ton
（CO_2換算）

高山植物保護活動の支援

◆NPO 法人 日本高山植物保護協会を応援しています

特定非営利活動法人日本高山植物保護協会支援活動として、所属している同協会関西支部の活動に積極的に参画し、高山植物保護思想の啓蒙活動だけではなく、広く環境保護意識の啓蒙に取り組みました。《紙面の都合上一部の活動をご紹介致します。》

☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆

【2006年度の主な行事】

- 春の観察山行
  ［伊吹山北尾根：５月１３日～１４日、参加者２５名］
- 定期総会・研修会・懇親会
  ［ホテルサンルート梅田：６月１０日、参加者４６名］
- 夏の観察山行
  ［伊吹山：７月２９日、参加者２１名］
- 環境学習会
  ［大阪南港野鳥園、資源リサイクルセンター：11月18日、参加者21名］

☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆・★・☆

春の観察山行～伊吹山北尾根～

春の観察山行　伊吹山北尾根[国見岳]2006. 5. 14

前日の懇親会で心配された雨が嘘のように、出発時刻が近づくにつれ青空がどんどん広がり、伊吹山北尾根登山道へ予定通り９時30分に入ることが出来ました。前日の雨で部分的に足元の悪いところもありましたが、風のせいか思ったより乾いていて快適に観察山行を進めることが出来ました。

ヤマシャクヤク、ザゼンソウ、サンカヨウ、エンレイソウ、カタクリ、イチリンソウ、ショウジョウバカマなど多くの花に出会うことが出来ました。

環境学習会～大阪南港野鳥園と資源リサイクルセンター～

毎年恒例の環境学習会を開催しました。今年の学習会は、大阪のコスモスクエアに集合し、午前中は『野鳥の楽園』大阪南港野鳥園で過ごした後、近くのＡＴＣフードアウトレットで中華バイキングの食事を楽しみ、午後は大阪万博公園近くにある『くるくるプラザ』資源リサイクルセンターを訪れました。

大阪南港野鳥園では、学芸員の方々による解説をお聞きした後、思い思いに、大阪市の環境に関する取り組みのパネル説明をクイズ形式のアンケートで答えるコーナー、小枝を使ったペン立て工作、説明を受けながら組み紐の飾り結びを体験できるコーナーなど、楽しい時間を過ごしました。

Melodian

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

メロディアンはチーム・マイナス６％に参加しています。

2007 年 7 月発行（ＶＯＬ．１６．２）